

令和2年度

活 動 報 告 書

山武郡市広域行政組合教育委員会

山武郡市教育相談センター

はじめに

山武郡市教育相談センター所長 小川 重之

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、一斉休校や感染症対策等、学校や児童生徒にとって大変な1年となりました。このような厳しい状況でしたが、山武郡市教育相談センターでは適応指導教室事業、教育相談事業を通して不登校や学校不適応等に悩む児童生徒や保護者、そして教職員の支援ができるように取り組んでまいりました。

適応指導教室事業では、4か所の教室に48名の児童生徒が通級してきました。継続通級者は27名、新規通級者は19名でした。各教室においては様々な特色を持った活動をしています。学習だけでなく、散歩、軽スポーツ、畑での野菜作り、干し柿づくり、小物づくり、カードゲーム、レク活動等、一人一人の実態に応じた支援を通して、少しずつですが自己有用感を高めています。適応指導教室が児童生徒の居場所として存在することができました。その結果、19名が学校復帰を果たすことができました。完全に復帰するまでには至らなくても、一部復帰ができた児童生徒もおりました。また、中学3年生については11名全員が進学することとなりました。

教育相談事業では、2月末日現在、電話相談件数116件（新規38件）、面接相談件数291件（新規35件）、訪問相談件数95件（新規4件）で合計502件の相談をお受けしました。学年別にみますと中学校1・2年生の相談が前年度に比べて多くなっています。相談内容としましては発達の遅れ、不登校、学習・成績、性格習癖、集団不適応と多岐にわたっております。それぞれのカウンセラーが相談者に寄り添いながら、支援を続けてまいりました。

研修講座事業については例年好評をいただいておりますが、感染拡大防止の観点からやむなく中止といたしました。次年度は感染症対策にも留意しながら、参加者のニーズに沿った実践的な講座を企画したいと考えております。

本報告書には、本センターの実績報告と8つの事例をまとめました。本センターに対しまして、より一層の理解を深めていただくとともに、教育相談に関する実践力の向上や様々な事例での問題解決等に、各現場で積極的に活用していただければ幸いです。

結びに、本センターの円滑な運営と活動報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました教育相談推進委員の皆様方をはじめ、関係機関の皆様方に厚くお礼と感謝を申し上げます。今後も教育相談業務の充実に努めてまいりますので、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

令和3年3月

目 次

1	相談実績報告及び適応指導教室利用状況	1
2	相談状況別考察	2
3	適応指導教室通級状況考察	5
4	事例研究	7
	事例 1 「生活リズムの乱れから欠席しがちな 5 歳児の事例」	
	事例 2 「こだわりのある 5 歳児の事例」	
	事例 3 「自分を認めてもらいたい気持ちが強く集団行動が苦手な 5 歳児の事例」	
	事例 4 「こだわりが強く、眉毛・毛髪を抜いてしまう小学校 1 年生の事例」	
	事例 5 「小学校生活に順応できず、不登校になった小学校 2 年生の事例」	
	事例 6 「学習不安を打ち明けられず、悩み続けた小学校 5 年生の事例」	
	事例 7 「自己肯定感が低く物事を否定的に捉えてしまう中学校 1 年生の事例」	
	事例 8 「急に不登校になってしまった中学校 3 年生の事例」	

1 相談実績報告及び適応指導教室利用状況

(1) 相談活動実績報告

(令和2年 4月6日～ 令和3年3月24日)

総件数	551 件		
内訳	【電話相談＝	127 件	(新規 40 人)
	【面接相談＝	319 件	(新規 37 人)
	【訪問相談＝	105 件	(新規 4 人)

電話相談数
面接相談数

①所属学年別分類【電話相談・面接相談】

所属	幼	小 学 校						中 学 校			高 校			他	合計
学年	*	1	2	3	4	5	6	1	2	3	1	2	3	*	***
男子	4	3	3	6	9	10	13	12	14	1	3	1	2	1	82
		6	16	20	17	3	28	11	13	5			7	2	128
女子			6	3	2	4	5	13	7	2	1	2			45
			16	18	23	30	15	33	37	7	10	2			191
小計	4	3	9	9	11	14	18	25	21	3	4	3	2	1	127
		6	32	38	40	33	43	44	50	12	10	2	7	2	319
合計	4	64						49			9			1	127
		192						106			19			2	319
総計	4	256						155			28			3	446

②相談内容別分類 (主に訴えるもの)【電話相談・面接相談】

所 属	幼	小 学 校						中 学 校			高 校			他	合計
項目\学年	*	1	2	3	4	5	6	1	2	3	1	2	3	*	***
教師・学校	3			4				3							10
							3						1		4
学習・成績			1	2	1		1								5
			3		4		1				3				11
集団不適応				1	1	2	1	5		2	1				13
			6	22		3	8	4							43
不登校			3			10	3	7	14	1					38
			4		1	13	9	22	38	4					91
行きしぶり					1			4	3						8
								9	3						12
いじめ・友人関係			1												1
親子関係						1	1	1	3						6
			1	1	1			2		2					7
異性関係															
性格・習癖			1		3	1	2		1		3		1		12
		1	4	2	2	8	9	5	5	2		1			39
発達の遅れ		2	4	2	5		10	5							28
		5	14	13	28	9	12	2	4						87
多動															
非行															
その他	1										1	1	2	1	6
					4		1			6	5	2	5	2	25
合計	4	2	10	9	11	14	18	25	21	3	5	1	3	1	127
		6	32	38	40	33	43	44	50	12	10	2	7	2	319
総計	4	8	42	47	51	47	61	69	71	15	15	3	10	3	446

③月別実績 (延べ件数)【電話相談・面接相談・訪問相談】

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
電話相談件数	16	20	5	10	6	4	17	6	10	11	11	11	127
面接相談件数	1	7	17	29	24	34	37	41	32	31	38	28	319
訪問相談件数		3	4	7	11	11	14	10	15	10	10	10	105
合計	17	30	26	46	41	49	68	57	57	52	59	49	551

(2) 適応指導教室利用状況

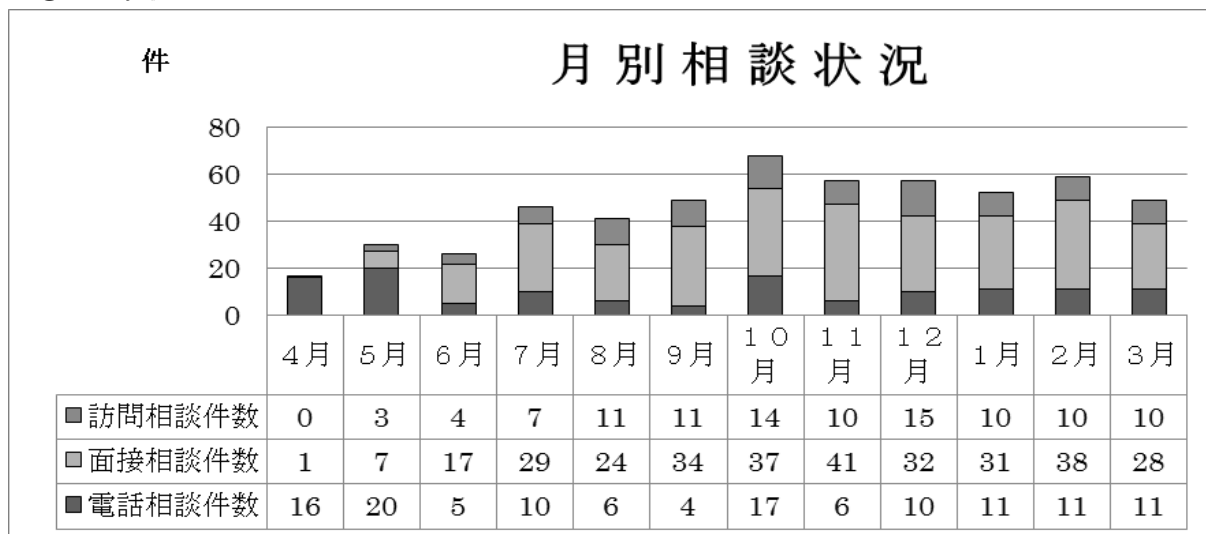
(令和2年4月6日～令和3年3月24日)

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計
大網白里教室							6	1	1	8
東金教室			2		4	2	1	5	4	18
山武教室				1	1	3	3	3	5	13
横芝光教室		1		1		3	1	2	1	9
合計		1	2	1	5	6	11	11	11	48

2 相談状況別考察

(1) 相談状況別考察

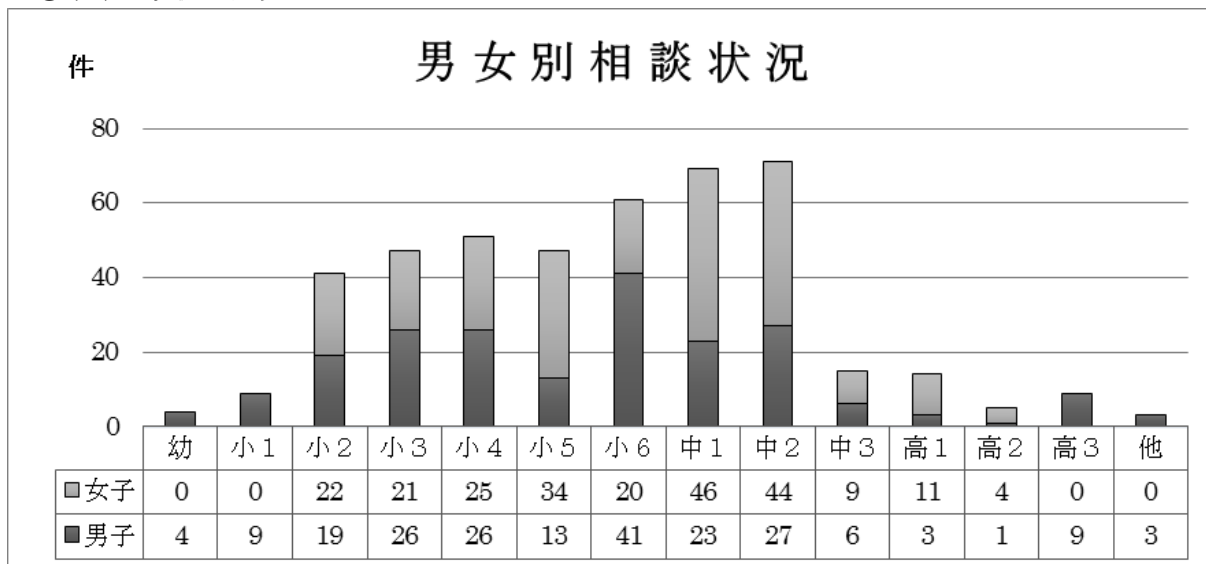
① 月別状況



月別の相談状況については、例年、新学年がスタートした4月や夏休みあけの9月の相談件数が最も多い傾向が見られる。本年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う4月の緊急事態宣言で、対面して行う面接相談を関係機関の方との面接を除き中止していたことにより、4・5月の相談件数が例年になく減少している。学校が再開してからは、3月からの長い休校明けから学校に行きしぶり、様子を見ていたものの好転しなかったケースや解決が見られないため、相談に至るケースもあった。

訪問相談については、開始以来13年目を迎えている。訪問を継続することで、少しずつ良い関係を築けるようになってきた。

② 学年別状況・男女別

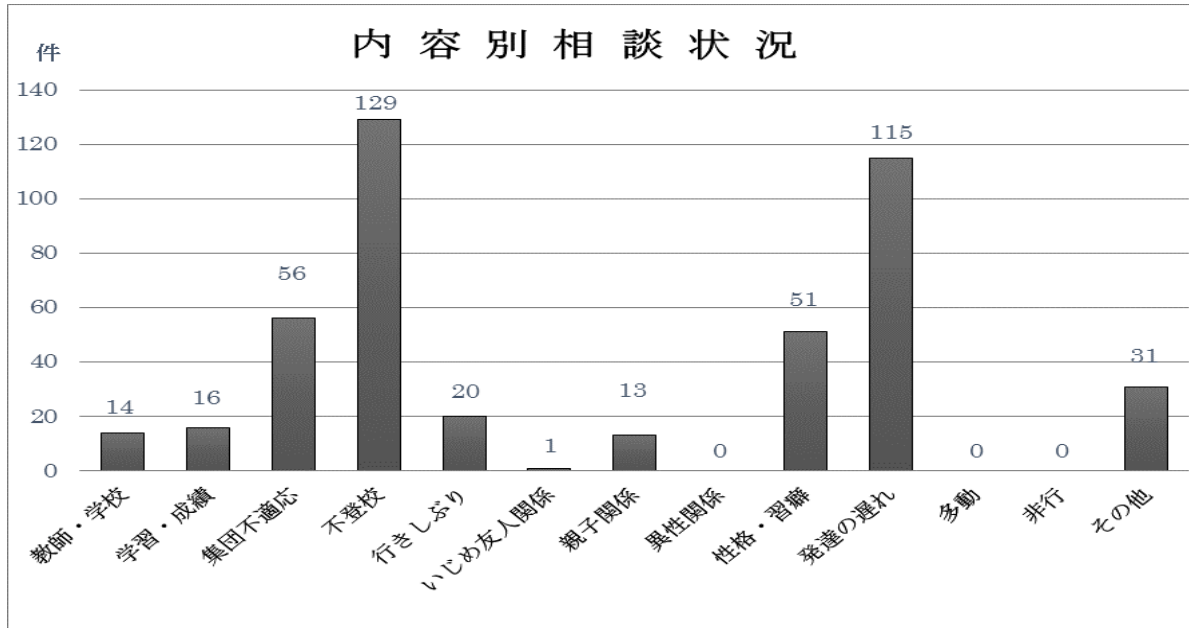


本年度の傾向として、中学校1・2年生の相談件数が多い状況にあった。保護者の申し出で、学校と情報を共有しながら児童生徒の支援についての方向性を見出すことができた。

また、男女別という観点からみると、昨年度と同じく女子の相談件数が男子の相談件数を少し上回っている。

当センターの相談対象は中学生（教職員は除く）までであり、高校生以上の相談を新規で受付けてはいない。高校生の相談件数については、中学校時代からの継続相談であり、様々な要因のため長期的になっている。

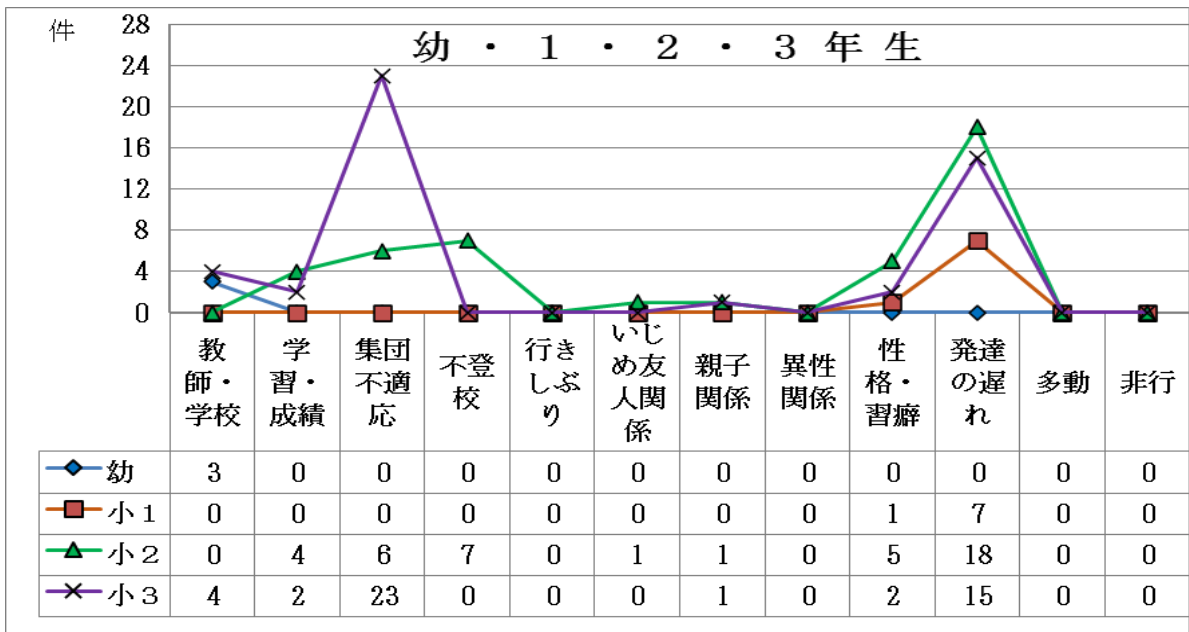
③内容別状況



相談の内容別にみると本年度は「不登校」に関する相談が多い状況になっており、中学生の相談が多いことが関係している結果となった。これは教育相談センター発足以来続いている傾向でもある。小学生の相談内容は、「発達の遅れ」「集団不適応」「性格・習癖」であり、子どもの成長とともに他の子どもとの発達の差を心配される保護者の方が多かったためだと思われる。

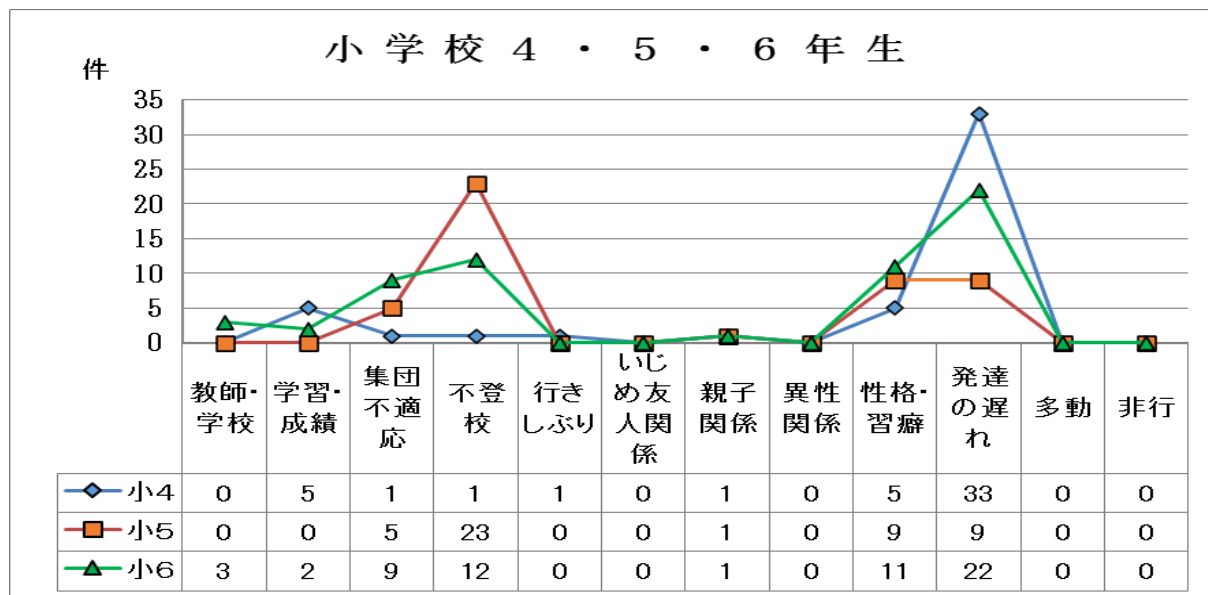
(2) 学年ごとの内容別状況考察

①幼・小学校1・2・3年生



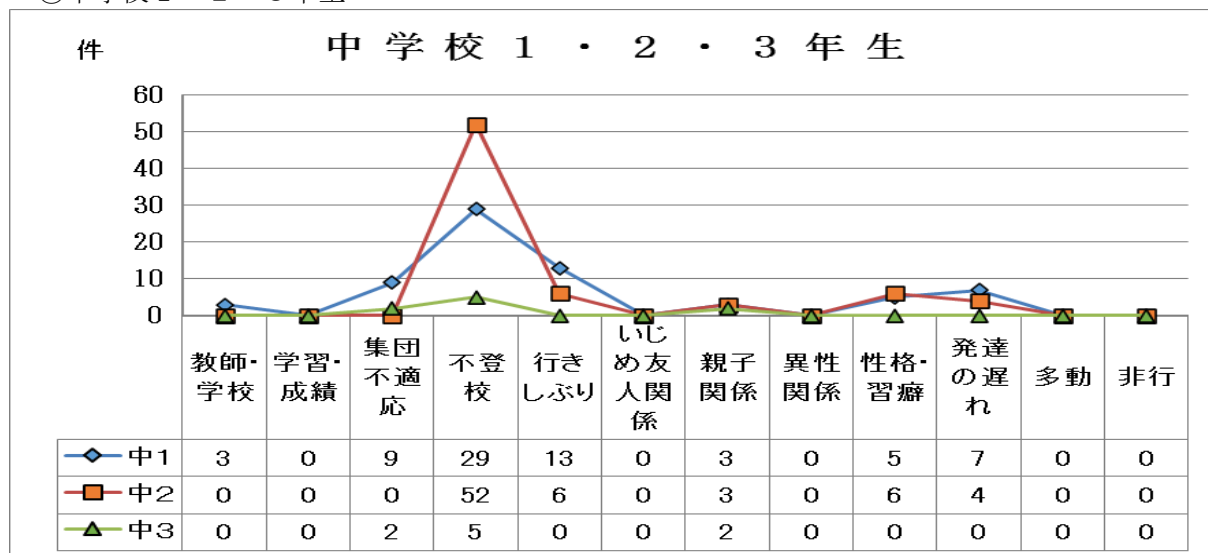
小学校1・2・3年生では、ここ数年「発達の遅れ」の相談件数が多い傾向にある。本年度も「発達の遅れ」に関する相談が多い状況であった。各学期末に行われる保護者面談で学級担任の勧めで相談に至るケースや、子どもの成長と共に他の子どもとの成長の差を心配された保護者からの相談であった。状況によっては、発達知能検査を実施して客観的なデータをもとに相談・支援する件数も増えている。

②小学校4・5・6年生



小学校の高学年では、ここ数年「不登校」「発達の遅れ」に関する相談件数が多い傾向にある。これは、低学年の間に起こっていた様々な課題が「不登校」という現象となって現れているのではないかと考える。「不登校」と「発達の遅れ」とは関係があり、授業についていけない、コミュニケーションが取れないことから不登校になってしまうケースもある。学期末の面談や、進級に向けての相談の中で、担任の先生からの勧めで相談に至るケースが多いようである。

③中学校1・2・3年生



中学生になると「不登校」の相談件数が急増してくる。小学校には頑張って登校していたが、学習や部活動、友人関係、親子関係、生活リズムの乱れなど様々な要因が少しずつ積み重なり「不登校」へとつながっている。様々な問題が複雑に絡んでいるケースが多く、回復までに長時間を要するケースも多い。

また、「発達」や「性格・習癖」にかかわる問題が背景にあって、結果として「不登校」という形で現れてくることも少なくない。

3 適応指導教室通級状況考察

学年別実績通級者数

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計
大網白里教室							6	1	1	8
東金教室			2		4	2	1	5	4	18
山武教室					1	1	3	3	5	13
横芝光教室		1		1		3	1	2	1	9
合計		1	2	1	5	6	11	11	11	48

上の表は各適応指導教室における学年別の通級者数を表している。

本センターの適応指導教室は自由選択制を導入しており、山武郡市内の児童生徒であれば、4つの適応指導教室のうち、いずれの教室にも通えるようになっている。そのため、児童生徒や家庭のニーズに合わせて教室を選択することができ、安心して通級することが可能になっている。

令和2年度は、48名の児童生徒が通級した。そのうち27名が昨年度からの継続通級であり、新規に21名が通級した。昨年度の通級児童生徒は57名であり、9名減少した。本年度の特徴としては、全4教室とも中学生が増加したことがあげられる。

1年間のおおよその通級及び登校状況は次のとおりである。

(1) 通級に関して

- 週に4～5日程度通級できた児童生徒・・・・・・・・・・・・・・・・ 8名
 - 週に2～3日程度通級できた児童生徒・・・・・・・・・・・・・・・・ 9名
 - 週1日程度通級できた児童生徒・・・・・・・・・・・・・・・・ 18名
 - 何らかの理由で通級しなくなった児童生徒・・・・・・・・・・・・ 13名
-
- 計 48名

(2) 学校への登校に関して

- 相談室登校や放課後登校・定期テストの参加など、
定期的に登校ができた児童生徒・・・・・・・・・・・・・・・・ 14名
 - 必要に応じて登校できた児童生徒・・・・・・・・・・・・・・・・ 11名
 - 学校への登校ができなかった児童生徒・・・・・・・・・・・・ 23名
-
- 計 48名

(3) 上記過程を経て学校復帰（一部復帰を含む）ができた児童生徒・・・19名

(4) 中学3年生の進路に関して

中学3年生の通級者数は11名であったが、進路状況は次のとおりである。

公立高校全日制へ進学	・・・	2名
公立高校定時制（通信制・三部制を含む）へ進学	・・・	0名
私立高校へ進学	・・・	5名
私立高校（通信制）へ進学	・・・	4名
特別支援学校	・・・	0名
在家庭	・・・	0名

何らかの理由で登校することができなくなっている児童生徒が、家庭や学校以外で安心して過ごせる場所である適応指導教室として、安定した通級や、学校復帰のために家庭や学校との連携を大切にしながら教室運営を行ってきた。

そうした中で、児童生徒が学校に近づいていくためには、担任の先生方をはじめとする学校の先生方の関わりが大変重要であると感じている。担任の先生の熱心な関わりをはじめ、管理職の先生方の来室、そして学校の組織的な支援により、児童生徒の状態が好転していったケースが多くみられた。特に学校復帰及び一部復帰ができた背景には、担任の先生方や学年の先生方の日頃からの関わりと働きかけ、そして、学校の受け入れ態勢作りが必ずあり、児童生徒が一步を踏み出すことに、大きく影響していたと思われる。特に、各適応指導教室に学校からの情報として学校便り・学年便りがあることで、学校の行事や様子がわかり、適応指導教室に通級していても学校とつながっていることを意識させることができた。

来年度も教育相談センターと学校や担任の先生方との連携を充実させ、学校の組織的な関わりと、担任の先生方との信頼関係の構築等のためにも情報連携をしっかりと行っていきたい。また、通級児童生徒の中には、家庭の問題等の起因により登校できない児童生徒もおり、他の関係機関（各市町教育委員会や子育て支援課、児童相談所等）との連携もさらに強化していきたい。

課題としては、今年度も仮通級を始めたものの、途中で通級が滞ってしまった児童生徒への対応があげられ、ここ数年同じ状況となっている。継続した通級ができるように、日ごろから児童生徒、保護者との信頼関係の構築、安心して過ごせる環境づくりに努めていきたい。

不登校の児童生徒や保護者が一人でも多く適応指導教室へつながることで、学校復帰や自立への一助になるようにしたい。

令和2年度 山武郡市教育相談センター教育相談推進委員

東金市立城西小学校	戸田 祐子
山武市立成東東中学校	鈴木 美緒
大網白里市立増穂小学校	山下 貴之
九十九里町立豊海小学校	鈴木 茂代
芝山町立芝山小学校	戸村 澄子
横芝光町立横芝中学校	小林 奈充
千葉県立東金特別支援学校	田邊 康子
千葉県立大網白里特別支援学校	尾崎 美恵子
東金市立第1保育所	小川 まゆみ
横芝光町立上堺保育所	鈴木 千秋
大網白里市立増穂幼稚園	内山 京子

「令和2年度 活 動 報 告 書」

令和3年3月31日 発行

編集・発行 山武郡市広域行政組合教育委員会
山武郡市教育相談センター
〒283-8505
千葉県東金市東岩崎1-17
山武郡市振興センター内
TEL 0475-54-0367